

地球環境保全行動戦略(令和4年度～令和6年度)

令和6年度 実施状況報告[概要編]

地球のことは、私のこと。
未来のことは、今のこと。

The Earth, Our Home. We Act Now for a Better Tomorrow.

戦略

1

生物多様性保全への貢献



行動計画(飼育展示)①

希少種の生息域内・域外における保全活動に多様な側面から貢献します

ズースtock種の飼育繁殖

38種/30種以上(R6計画)



多摩動物公園で50年ぶりに繁殖したインドサイ

東京都の策定した第2次ズースtock計画、および当協会の保全プロジェクト対象種のうち、上野10種、多摩13種、葛西10種、井の頭11種、合計38種(※)の繁殖に成功しました。

※当該種数は令和6年1月1日～12月31日の実績であり、複数園で繁殖した種は1種とカウントした。なお、第2次ズースtock計画では東京都環境局所管の大島公園動物園を含め37種の繁殖に成功した。

そのほかの取組

- ✓ 環境省保護増殖事業と連携し、小笠原陸産貝類、ミヤコカナヘビ、ライチョウ、トキ、オガサワラカラビワ、アカガンシカラスバト等の飼育下繁殖や技術開発に取り組みました。
- ✓ 野生生物保全センターでは、トキ保護増殖事業における長期的な支援に向け、人工飼料の改良などの栄養研究を開始しました。

行動計画(飼育展示)②

飼育下における動物福祉の向上と維持を図ります

動物福祉体制・環境エンリッチメント



座学とグループワーク、実技を通してスキルを向上

主に若手職員を対象とした内部講師による「エンリッチメント研修」を開催し、職員の意識啓発及びアニマルウェルフェア(動物福祉)の向上に資する取組の強化を図りました。

そのほかの取組

- ✓ ふれあいプログラムによりモルモットが受けるストレスの評価手法の確立を目指し、大学と共同で眼球の表面温度による評価検証を行いました。
- ✓ 令和2年度に策定した「動物飼育展示に関する倫理・福祉ポリシー」の見直しを行い、新たに「アニマルウェルフェアに配慮した動物飼育展示等に関する基本方針」として改訂し、当協会ホームページで公表しました。

行動計画(飼育展示)③

飼育繁殖事業や調査研究を通じて得られる科学的知見を積極的に情報発信します

国内外の会議・学会における発表・報告

50件/35件以上(R6計画)

印刷媒体やデジタル媒体における
調査研究成果の公表

飼育繁殖事業や調査研究等を通じて得られた科学的知見について、国内外の会議・学会や、印刷媒体・デジタル媒体において積極的に発信しました。

国内外の会議・学会における発表・報告事例

- A Comprehensive Study of Nutrition Management on Malayan Sun Bears (*Helarctos malayanus*) Housed in Asian Zoos (32nd SEAZA Conference 2024)

印刷媒体やデジタル媒体における調査研究成果の公表事例

- 園内のチョウ類調査 調査の経緯と結果について (掲載誌 昆虫園研究)

12件/20件以上(R6計画)



行動計画(教育普及)①

生物の現状や保全活動、地球環境問題について適切な手法を選択し、より積極的に広く伝えます

野生生物の現状を伝える教育活動



ツシマヤマネコ保全講演会「動物園と生息地をつなぐ」

講演会・シンポジウム等を22件開催し、野生生物の生息地における現状と、動物園が取り組む保全活動や、一人ひとりができる環境保全について発信しました。

ツシマヤマネコ保全講演会「動物園と生息地をつなぐ」には会場とオンライン合わせて100名以上の参加があり、「域外保全と域内保全(野生順化ステーション)それぞれの役割が理解できて良かった。」といった感想が寄せられました。

<その他の例>

パンダの日記念講演会、身近な水辺保全講演会など

園内の自然を活用した教育普及活動



ヤマユリのガイドツアー(多摩)

園内植物の適切な維持管理を行うだけでなく、各種普及啓発活動の資源として最大限活用しました。多摩動物公園で保全に注力しているヤマユリの開花株数は着実に増加しており、園内の貴重な植物を保全するとともに、ガイドツアーなどを通して身近な緑を保全することの意義を来園者へ伝えました。

その他の取組

- ✓ 携帯電話やスマートフォンなどに使用される「レアメタル(希少鉱物)」を採掘するため、ゴリラの生息地が破壊されています。上野動物園では、採掘の負荷を少しでも減らすこと、またこの問題について広く知っていただくことを目的に、「世界ゴリラの日」に合わせて使用済み携帯電話・スマートフォンの回収ボックスを設置しました。

行動計画(教育普及)②

教育機関と連携し、実物を介した体験的な学びを通して、環境教育・保全教育をサポートします

教育機関との連携(教員研修)



講座「身近なムシの調べ方・よび寄せ方」

毎年実施している教員向け研修では、「3年理科 昆虫に親しむ・昆虫を知る」、「干潟で体験!生きものと環境を知る」、「身近なムシの調べ方・よび寄せ方」などの12講座を計23回開催し、のべ620名もの教員が参加しました。

そのほか、学校教員へのヒアリングを10件、専門家へのヒアリングを2件実施し、新たなプログラムや教材の開発に生かしました。

教育機関との連携(教材の制作)



オンライン教材「うみのかくれんぼ」

新たなパッケージ教材として、「うみのかくれんぼ」、「動物のからだのつくりと運動」の2点を制作、配信しました。

その他の取組

- ✓ 中高生向けの「レポートチャレンジ企画」には、過去最多となる800件弱の応募がありました。学習支援として、レポート作成のポイントを伝える動画を制作したほか、学校向けの事前・事後授業を5校(15件)実施しました。

戦略 2 気候危機への対応



行動計画①

化石燃料由来エネルギーの消費抑制や利用効率化、再生可能エネルギーの利用に努めます

緑のカーテンや遮熱フィルムの設置



レストランシーウインド(葛西)

葛西臨海水族園 レストランシーウインドをはじめ、両生爬虫類館池側壁面、池之端門脇トイレ、パンダ観覧列(上野動物園)、ウォッチングセンター(多摩動物公園)、入場券売り場横(井の頭自然文化園)で「緑のカーテン」を設置し、エネルギーの消費抑制を図りました。

その他の取組

- ✓ 上野は小獣館周辺の園路灯やサイ舎観覧通路照明など、多摩はアフリカゾウ放飼場や石象橋など、井の頭はゾウ舎に園路を照らすための照明器具をLED化しました。
- ✓ 葛西では、展示用水槽などの水槽照明を高効率な照明器具に交換しました。

行動計画②

園内樹木を適切に管理し、緑の充実・保全と良好な都市環境の形成に努めます

伐採木の園内再資源化と緑化・園内樹木等の良好な管理



ナラ枯れ被害木の伐採作業(多摩)



NPO法人と協力し雑木林の再生に取り組む(多摩)

定期的な樹木点検や整枝剪定を行う等、園内樹木等の良好な管理に努めました。

また、近年、各地で猛威をふるうナラ枯れ被害の拡大を防ぐため、多摩動物公園ではナラ枯れ被害木の伐採作業と予防のための樹幹注入作業を継続的に実施したほか、NPO法人樹木環境ネットワークと協力して補植用苗木を育成・植樹し、ナラ枯れで痛んだ樹木の再生に取り組みました。

その他の取組

- ✓ 上野動物園では、園内樹木への樹幹注入を63本実施したほか、園内樹木(主に桜)へ打ち込み型の肥料を与えました。

行動計画③

地球環境に配慮した行動様式の見直しを図ります

ノンフロン冷媒等を使用する機器への転換

店舗で使用する冷蔵庫・冷凍庫について、機器更新に合わせて、より環境負荷の低い機器に入れ替えました。

(多摩) 冷蔵庫2台、冷凍冷蔵庫1台
(井の頭) 冷蔵庫2台、冷凍庫2台

その他の取組

- ✓ 施設の長寿命化を図るため、予防保全的見地に立った施設補修・修繕、設備更新等を実施しました。
- ✓ 電力使用量削減に向けたさらなる取組として、昼休みの一斉消灯を推進しました(総務部)。
- ✓ 各種事務のシステム一元化に向けた設計及び開発を行い、出張旅費申請や看護休業等申請の申請様式10件をシステム化し、総務部での試行を始めました。

戦略 3 循環型社会への寄与



行動計画①

各種資源使用量の削減と再利用を推進します

ユニフォームのリサイクル



廃漁網をリサイクルした素材を一部使用したポロシャツの導入(葛西)

葛西臨海水族園では、レストラン・ギフトショップの夏用ユニフォームについて、廃漁網をリサイクルした素材を一部使用したポロシャツに変更しました。

その他の取組

- ✓ マイボトルの利用を促進しペットボトルの使用量を削減するため、多摩にウォーターディスペンサーを1台設置しました。
- ✓ 上野にペットボトル減容回収機を1台設置しました。

緑のリサイクルの推進



剪定枝を動物の餌として活用(多摩)

園内の景観保全や樹木の健全な育成を図るために剪定された枝葉の一部を、動物の餌として活用しました。

その他の取組

- ✓ 園外の再資源化施設にて熱エネルギーとして利用(多摩)
- ✓ リス繁殖棟で廃棄された丸太の再利用(井の頭)
- ✓ チップ化して園内で再利用(葛西)
- ✓ 殿ヶ谷戸庭園から提供を受けたシラカシの枝葉をアジアゾウとアフリカゾウの餌として活用

行動計画②

飲食・物販店や餌等の食品ロス低減等に取り組みます

飲食・物販店の食品ロス低減

昨年に引き続き、総務部と4園の担当で結成したワーキンググループを中心に野菜の廃棄量削減などさらなる効率化に向けて議論を重ねました。

その他の取組

- ✓ フンや食品残渣の堆肥化・再利用に関する事例調査を実施しました。

行動計画③

環境に配慮した国際認証製品の使用など、環境破壊を加速させない取組を推進します

環境に配慮した製品の使用



コウノトリ育むお米

上野と多摩のレストランにおいて、コウノトリも住める豊かな文化、地域、環境づくりを目指す「コウノトリ育む農法」で栽培した「コウノトリ育むお米」を使用しました。

その他の取組

- ✓ GOTS認証のオーガニックコットンバッグ、FSC認証紙/ベジタブルオイルインキ使用のフォトブック、FSC認証材を使用したマグネットを販売しました。
- ✓ アップサイクルコットンタオル、工場内で廃棄されるPET生地をリサイクルしたショッピングバッグ、卵の殻と廃棄ビニールを再利用したりリサイクル素材のペンケースを販売しました。

戦略4 地球環境保全に貢献する組織基盤の強化



行動計画①

地球環境保全の推進に向けた実践的な組織体制を構築します

地球環境保全の積極的な情報発信



ヤマネコ祭2024(井の頭)に出展



レストランやギフトショップの環境に配慮した取組を紹介



地球環境保全に関する情報発信の一環として、井の頭で開催された「ヤマネコ祭」に東京動物園協会ブースを出展し、2日間で約1,600名に都立動物園等の環境保全に関する取組などを紹介しました。また、レストランやギフトショップの環境に配慮した取組を紹介するポスターを新たに制作し、店舗利用者に当協会の取組を伝えました。

地球環境保全に関する意識啓発



兵庫県立コウノトリの郷公園でレストラン職員等が研修受講

レストランでコウノトリ米を使用する意義を職員自身がより深く理解するため、販売店舗の関係者を中心に生産地である兵庫県豊岡市を訪問し、JAたじまやコウノトリの郷公園の視察、農家の方々との交流などを通して、コウノトリの保全活動への理解を深めました。

そのほかの取組

- ✓ 地球環境保全の積極的な情報発信として、日野市環境フェア(2月・外部出展)や「コウノトリまつり2025」(2月・多摩)においても都立動物園等の環境保全に関する取組を紹介しました。

行動計画②

多様な主体との連携を強化し、地球環境保全のための事業を推進します

野生生物保全基金のPR



野生生物保全基金報告講演会

保全パートナー部門について新たに1件の助成を開始し、継続助成先と併せて2件の共同研究を開始しました。

助成対象活動の成果報告講演会を開催し、研究要旨を東京ズーネットで公開したほか、動物園友の会の会誌「どうぶつと動物園」に研究成果をまとめた記事を掲載するなど、保全基金のPRとなる普及活動を実施しました。

そのほかの取組

- ✓ 野生生物保全基金の助成制度を広くアピールするとともに、助成対象活動を公募し、中高生部門の助成を5件実施しました。
- ✓ サポーター資金について、クレジットカードによる寄付システムの運用を引き続き実施し、クレジットカード決済による寄付の割合が全体の約6割となりました。